



一橋大学附属図書館概要

平成 29 (2017) 年度

目 次

1.	一橋大学附属図書館の機能・特色	1
2.	平成 28 年度の活動状況	5
3.	利用案内	11
4.	統 計	13
5.	展 示	18
6.	情報リテラシー教育支援	23
7.	機関リポジトリ	25
8.	図書館情報システム	29
9.	施 設	32
10.	組 織	36
11.	沿 革	40
12.	案 内 図	43

《表紙写真》 附属図書館 建物正面 (H27.4 撮影)

本概要に掲載された文章、写真、図版等の著作権は、特記あるものを除いて、すべて一橋大学附属図書館に属します。著作権者の許諾を得ずに、著作権法の定める範囲を超えて、本概要からの転載等を行うことは禁止されています。

1. 一橋大学附属図書館の機能・特色

一橋大学附属図書館は、資料を集中化させる中央図書館制度を採っており、商法講習所の開設以来 142 年を経た歴史の中で、社会科学を中心とした約 199 万冊の図書や約 17,100 タイトルの雑誌、60 にも及ぶ貴重なコレクションを蓄積してきた。

さらに、社会科学を中心とした電子ジャーナルや電子ブック、データベースの充実、情報リテラシープログラム等の展開を図り、本学の研究教育を支援している。

また、一橋大学機関リポジトリ(HERMES-IR)、ウェブサイトや展示等により、本学の研究成果や知的・文化的資産である図書館資料を国内外に発信するとともに、他大学図書館等との連携強化によりサービスの向上を目指している。

1.1 一橋大学附属図書館の機能

研究支援	世界的研究に資する社会科学に関する総合的資料の収集に努める。 一橋大学機関リポジトリにより本学教員の業績とその一次コンテンツへのアクセス利便性を向上させる。
教育・学修支援	学生の情報リテラシー能力向上を支援し、学生の主体的活動と連携した学生協働事業を行うとともに、電子的資料や情報機器を活用した学修環境整備を進める。
社会貢献	本学が所蔵する貴重なコレクションを電子化することにより、国内外へ広く公開する。また、展示を行うことにより、学内関係者にとどまらず、地域住民等へ公開する。

1.2 一橋大学附属図書館の特色

(1) 中央図書館制度

中核となる図書館に資料を集中配置する仕組みで、当館にはこの制度により、社会科学系の研究総合大学としての研究教育活動に沿った資料が体系的、網羅的に収蔵されてきた。

これにより、教員と学生の情報アクセス格差が限りなく小さくなるとともに、資源の共有、資料費の有効活用が図られている。

(2) 開架 122 万冊

蔵書の大半の約 122 万冊の図書・雑誌を開架配置しており、自由に利用することができる。これにより、図書館利用者の学習・研究が迅速かつ効率的に行われる基盤が形成されている。



(3) 電子的なサービス

社会科学系を中心とした電子ジャーナル(約 17,500 タイトル)や電子ブック(約 9,900 タイトル)、各種データベース(約 60 種)を提供している。ウェブサイトで貸出予約や購入申込、文献複写・相互貸借申込ができる MyLibrary サービスや、社会科学系の電子リソースポータルを提供している。また、EZproxy システムにより、キャンパス外からも MyLibrary を通じて電子ジャーナル等にアクセスできる。

また、一橋大学機関リポジトリ(HERMES-IR)は、一橋大学の研究成果や多様なコンテンツを収集し、積極的に発信することを目指している。

館内には、利用者が快適・安全に利用できる PC(50 台)を設置するほか、学内利用者の持込ノート PC などを、学内無線 LAN によりキャンパスネットワークへ接続することができる。平成 24(2012)年度から、ノート PC やプロジェクタの館内貸出も行っている。

(4) 静謐な読書空間

現在の図書館のうち最も古い時計台棟は、昭和 5(1930)年に建てられ、平成 26(2014)年に改修工事が行われた。

大閲覧室(2 階)は内装の改修を行い明るく綺麗に生まれ変わったが、景観は当時のままに、図書館としての静謐な読書空間を提供している。



(5) 展示

図書館展示室では、常設展示として本学の歩みと所蔵コレクションを紹介している。

毎年秋の企画展示では、普段展示できない貴重資料等を公開するとともに、展示テーマに即した講演会を開催している。



図書館展示室は、時計台棟改修工事に伴い内装も新しくなり、平成 27(2015)年 5 月 17 日にリニューアルオープンした。

(6) 大学図書館としての全国的な役割

○ 外国雑誌センター館

国立大学に設置された分野別外国雑誌センター館(9館)のひとつとして、昭和60(1985)年から、国内未収集の社会科学系の外国雑誌等を体系的に収集・整理し、国内外の研究者等を対象にサービスを提供している。

○ EU 情報センター(EUi)

世界に約 500 機関(日本では 19 機関)ある欧州連合情報センター(European Info=EUi)のひとつとして、平成 3(1991)年から、EU 諸機関の主要な公式出版物や資料を備えている。

○ コンソーシアム等組織における連携活動

国立大学図書館協会、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)、オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)などの会員館として、各組織の運営に携わっている。

(7) 他の大学等との図書館間連携・相互協力

○ 国内の大学図書館等との相互利用

次の各大学・研究機関の図書館との協定により、図書館の相互利用を行っている。

機関名	内容	開始時期
東京医科歯科大学 東京工業大学	「四大学連合憲章」に基づき、入館利用(館内閲覧、文献複写)のほか、特別聴講学生には館外貸出も可とする。	平成 15(2003)年 10 月
東京外国語大学		
東京学芸大学 東京農工大学 電気通信大学		
東京多摩地区の国立 5 大学の間で、入館利用を可とする。	平成 15(2003)年 10 月	
慶應義塾大学	入館利用を可とする。	平成 16(2004)年 6 月
早稲田大学	入館利用を可とする。	平成 16(2004)年 6 月
上智大学	ILL による所蔵資料の現物貸借を行う。	平成 16(2004)年 6 月
アジア経済研究所	ILL による所蔵資料の現物貸借を行う。	平成 21(2009)年 10 月
国際基督教大学	入館利用およびILLによる現物貸借を行う。	平成 23(2011)年 4 月
津田塾大学	入館利用およびILLによる現物貸借を行う。	平成 23(2011)年 7 月
アジア経済研究所	入館利用および個人貸出を可とする。	平成 26(2014)年 1 月

○ 海外の大学図書館との交流

平成 24(2012)年から中国人民大学図書館と交流協定を結び、図書館の相互利用などの交流を行っている。

(8) 情報リテラシー教育支援

図書館の利用案内や、文献の検索・入手等の方法、データベースの利用法、専門助手によるレポート・論文の執筆法などのガイダンスを開催している。

(9) 研究開発室の設置

当館および社会科学古典資料センターには平成 19(2007)年度から専門助手を配置していたが、図書館機能のさらなる強化に向けた調査研究を行うため、平成 24(2012)年度に附属図書館研究開発室を設置した。

図書館コレクションや歴史的資料の収集・保存および公開に関する調査研究のほか、図書館職員と共に情報リテラシー教育支援を行うなど、図書館の諸課題に取り組む中核的な組織として、かつ、研究・教育と図書館業務との横断的な組織として活動を行っている。

2. 平成 28 年度の活動状況

2.1 主なトピックス

(1) 大学図書館ランキング国内総合 4 位

『大学ランキング 2017 年版』(朝日新聞社 2017 年刊)の「大学図書館ランキング」にて総合分野(学生1人当たりの数値)で 4 位を獲得。

(2) 「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」の開始

文部科学省共通政策課題「文化的・学術的な資料等の保存等」(平成 28～30 年度)の支援を受け、社会科学古典資料センターと連携し、「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」を開始した。初年度は、国立国会図書館を含む 4 機関から研修生を受け入れ、保存のための実務研修を実施した。

また、紙資料の保存に関するシンポジウム「書物の構成要素としての紙について～本の分析学」を開催し、約 50 の機関から 100 名を超える参加者があった。

(3) 「傘寿記念基金文庫」の設置

公益財団法人一橋大学後援会からの寄贈により、「傘寿記念基金文庫」を設置した。本文庫では、「大先輩からの『本との出会い』という贈りもの」というコンセプトのもと、学生が読書を通じて教養を高め知見を広げ、また今後の人生の糧となるような本と出会うことを願い、従来の収集基準にとどまらない図書の提供を図っていく。

(4) 一橋大学古本募金の開始

平成 29 年 1 月から一橋大学古本募金を開始した。卒業生・在学生・保護者・教職員・一般の方が読み終えた本などを提携会社に送付し、その買取金額が「一橋大学基金」への寄付となる取組みであり、寄付金は広く本学の研究教育活動に役立っている。広報活動に注力した結果、平成 28 年度(平成 29 年 1 月～3 月)は約 42 万円の寄付があり、想定を上回る実績を挙げる事ができた。

如水会や学生団体「チーム・えんのした」をはじめとする学内外の機関と連携し、古本の回収箱を設置する等認知度の向上に資する活動を行っている。

(5) 学生選書会「時計台棟書店」を開催

学生の読書推進活動の一環として開催していた学生選書ツアーに代わり、書店の見計らい制度を利用した学内での選書会「時計台棟書店」を新たに開催した。学生 250 人の参加があり、84 冊の図書を選定した。

(6) 小平研究保存図書館の利用方法拡充

国立キャンパスの図書館狭隘化を緩和するため、学長裁量経費等により、平成 28 年度

末までに図書・雑誌約 145,150 冊および非図書資料棚板換算約 85 段相当の資料を小平へ移動した。小平研究保存図書館の資料については、複写物の提供のみを行っていたが、平成 28 年 7 月より取寄せおよび訪問利用による現物提供サービスの試行を開始した。

(7) IIR 図書収蔵庫の撤収

平成 24 年度末のイノベーション研究センター(IIR)資料室サービス終了に際して、その所蔵資料は附属図書館に移管され、資料室の書庫部分は IIR 図書収蔵庫として附属図書館が運用してきた。平成 28 年度補正予算による IIR の改修に伴い、IIR 図書収蔵庫の資料約 5 万冊の再配置と書架約 600 連の再設置を行った。

(8) 雑誌棟の配架調整

資料の適切な保存・提供のため館内の資料再配置計画を検討し、雑誌棟3階和製本雑誌の配架調整(同階全面移動)を全館員およびワークスタディ学生を動員して行い、概ね 5 年分程度の収容力回復を図った。

(9) 機関リポジトリにおけるオープンアクセスに向けた取組み

オープンアクセスの促進のため、機関リポジトリに登録されている学術論文および平成 25 年度以降の博士論文 12,942 件に、国際的なデジタル識別子(DOI: Digital Object Identifier)の付与を開始した。これにより、将来にわたってインターネットのリンク切れが防止でき、研究成果にアクセスしやすい仕組みとなった。

(10) デジタルアーカイブ事業の実施

機関リポジトリのコンテンツの拡充を目的として、平成 28 年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費)「近現代日本の専門職業人養成教育資料データベース」事業により、貴重資料の電子化とインターネット公開を行うデジタルアーカイブ事業を実施した。

(11) 外国雑誌、電子的学術資料(データベース)見直しのための教員アンケート等実施

外国雑誌等の価格高騰、円安および消費増税に対応するため、外国雑誌、電子的学術資料(データベース)の見直しを行い、教員アンケート等を実施した。その結果、外国雑誌 429 誌、データベース 1 件を中止し、約 2,100 万円分の節減を図ることができた。一方、新規に雑誌 11 誌、データベース 1 件の導入ができた。

(12) 開館時間の延長および学部学生の貸出可能冊数の拡大

平成 29 年度の 4 学期制導入への対応を目的として、需要が大きいと見込まれる授業期間および休日の開館時間を延長するための規則改正を行った。また、学部学生の主体的学修を支援することを目的として、学部学生の貸出可能冊数を従来の 8 冊から 10 冊に増やすための規則改正を行った。

2.2 年間活動記録

(1) 情報リテラシー教育関連

①	4月1日(金)～15日(金)	大学院生向け図書館ガイダンス, ツアー
②	4月1日(金)～28日(木)	図書館脱出ゲーム
③	4月19日(火)～22日(金)	修論の書き方ガイダンス
④	5月18日(水), 20日(金)	レポートの書き方ワークショップ
⑤	6月13日(月), 14日(火), 17日(金)	データベース講習会
⑥	6月22日(水)	英語論文の書き方ガイダンス
⑦	7月6日(水), 8日(金)	卒論の書き方ガイダンス
⑧	10月12日(水), 21日(金)	Before&Afterでわかるレポートの組み立て方ワークショップ
⑨	10月12日(水)	就活ガイダンス
⑩	10月24日(月)	英語論文の書き方ガイダンス
⑪	10月28日(金)	博士論文提出予定者向け著作権ガイダンス



(1) ②図書館脱出ゲーム



(2) ④ブックトーク2016 (図書館会議室)

(2) 行事

①	5月14日(土)	ホームカミングデー(特別資料展示, 図書館見学, 卒業論文閲覧)
②	5月17日(火)	トークイベント「一橋大学と肖像画:修復された偉人のおもかげ」開催(於:図書館会議室)
③	5月18日(水)	高本善四郎図書助成金による学生選書ツアー(春のブックハンティング)開催(於:ジュンク堂書店立川高島屋店)
④	6月24日(金)	ブックトーク2016「ヨーロッパ 時空の交差点 一場所に学ぶ、書物に学ぶ、その作法」開催(於:図書館会議室)
⑤	7月1日(金)～8月5日(金)	平成28年度日・EUフレンドシップウィーク展示「今、EUに発信するNIPPON」

⑥	7月31日(日)	オープンキャンパス(特別資料展示, 図書館見学)
⑦	10月18日(火)	ブックトーク「メキシコ企業を探した2年間—著者が語る『メキシコ自動車産業のサプライチェーン』」開催(於:図書館会議室)アジア経済研究所図書館・一橋大学附属図書館共催(共同利用制度開始二周年記念講演会)
⑧	11月9日(水)	傘寿記念基金文庫オープニングセレモニー(一橋大学後援会主催)
⑨	11月14日(月) ～18日(金)	高本善四郎図書助成金による学生選書会「時計台棟書店」開催(於:図書館セミナールーム)
⑩	2月15日(水)	シンポジウム「書物の構成要素としての紙について～本の分析学」開催(於:一橋大学 如水会館百周年記念インテリジェントホール)



(2) ⑧傘寿記念基金文庫オープニングセレモニー



(2) ⑨時計台棟書店

(3) 図書館業務関連

①	8月29日(月)～9月9日(金)	筑波大学からインターンシップ図書館実習生(1名)受入
②	11月3日(木)～11月6日(日)	平成28年度蔵書点検
③	1月25日(水)～1月31日(火)	除籍図書を学内教職員・学生へ無償譲渡
④	2月6日(月)～2月7日(火)	東京都立武蔵台学園から就業体験学習実習生(高等部2年・2名)受入

(4) 学外での講演・発表

①	11月5日(水), 30日(水)	平成28年度大学図書館職員短期研修「大学図書館における目録実務とNACSIS-CATシステムの現状および今後の構想」講師(目録情報係・藤井)
②	12月7日(水)	第27回国立国会図書館保存フォーラム「西洋古典資料の媒体変換と原本の保存」報告(社会科学古典資料センター・床井)

③	2月20日(月), 27日(月)	平成28年度国立大学図書館協会シンポジウム「これからの大学図書館環境を考える」ファシリテーター(社会科学古典資料センター・床井)
---	---------------------	--

(5) 実務研修派遣

①	8月1日(月)～ 10月7日(金)	平成28年度国立情報学研究所実務研修(JUSTICE事務局)(レファレンス係・赤木)
---	----------------------	--

(6) 海外出張

①	11月13日(日) ～19日(土)	平成28年度国立大学図書館協会海外派遣[シンガポール;シンガポール国立大学,南洋理工大学,シンガポール経営大学](雑誌情報係・寺島)
---	----------------------	--

(7) 館内ワーキング・グループ, プロジェクトチーム活動

①	情報リテラシー教育ワーキング・グループ(通年)	主体的な学習活動促進のために, ガイダンス等を通じて, 情報リテラシー教育を支援する。
②	図書館利活用ワーキング・グループ(通年)	学生選書ツアー・選書会, ブックトーク, 高本小展示等の学生向け読書推進活動を行う。
③	図書館業務システム定例会(通年)	図書館業務システムの運用課題に取り組む。
④	資料等再配置計画検討ワーキング・グループ(通年)	資料配置等における課題を洗い出し, 第3期中期目標・中期計画に沿った適切な資料配置および効果的なスペース活用について検討する。
⑤	図書館グローバルデザイン・ワーキング・グループ(通年)	図書館概要英文版の作成。また, 留学生向け図書館ツアーを実施。
⑥	企画展示ワーキング・グループ/ 常設展示ワーキング・グループ	図書館展示室で開催する展示について, 企画展示と常設展示それぞれに, 研究開発室助教・専門助手をリーダーに計画・実施。

(8) 図書館内研修会開催

①	8月24日(水), 9月2日(金), 9月20日(火), 9月26日(月)	デザイン勉強会 (第1回「色を使いこなす」, 第2回「フォント選びのコツ」, 第3回「レイアウトのコツ(1)」, 第4回「レイアウトのコツ(2)」)
---	---------------------------------------	--

②	8月31日(水), 9月16日(金), 9月30日(金)	海外派遣勉強会 (第1回「海外派遣応募の背景と調査計画の概要」, 第2回「シンガポールの大学の研究支援について」, 第3回「海外派遣におけるインタビュー調査」)
③	1月25日(水)	附属図書館海外派遣・実務研修報告会(報告者2名)

(9) 外部資金等による事業

①	日本学術振興会	「ひらめき☆ときめきサイエンス」中学生・高校生を対象に, 西洋古典資料の保存修復を体験
②	日本学術振興会	平成28年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費)「近現代日本の専門職業人養成教育資料データベース」事業による明治期以降の本学の講義ノート, 受講ノート, 教科書等の電子化
③	国文学研究資料館, 慶應義塾大学	共同研究「古典籍画像を対象としたメタデータ記述／アノテーションに関する研究」による幸田文庫の電子化

3. 利用案内

3.1 開館時間・各種サービス案内

		平日(月～金)		土・日・祝	
		授業期	休業期	授業期	休業期
図書館本館		8:40～22:00	8:40～19:00	9:30～20:00	9:30～19:00
雑誌棟		8:40～21:30	8:40～18:30	9:30～19:30	9:30～18:30
大閲覧室		8:40～21:30	8:40～18:30	-	
書庫	(入庫)	9:00～16:30		-	
	(出納)	9:00～16:45			
貴重資料利用		9:00～17:00	9:00～12:00, 13:00～17:00	-	
マイクロ資料利用		9:00～17:00 (注1) 17:00～21:30	9:00～12:00, 13:00～17:30	(注1)9:30～16:30	
ヘルプデスク(レファレンス・文献複写・現物貸借)		9:00～17:00	9:00～12:00, 13:00～17:00	-	
利用証発行		9:00～17:00		-	

(注1) 学内者は、事前申込により平日夜間、土日祝日にマイクロ資料の閲覧が可能

3.2 利用の範囲

利用者区分	利用証有効期間	閉架書庫 入庫	館外貸出
教職員	在職期間	○	○
学部学生	在学期間	×	○
大学院学生	在学期間	○	○
名誉教授	終身	○	○
元専任教員	交付日から1年間(更新可)	○	○
研究員	在籍期間	○	○
学部卒業生	交付日から1年間(更新可)	×	×
大学院修了者	修了後5年間	○	○
他機関の研究者(館長許可)	交付日から1年間(更新可)	○	○
大学功労者	終身	×	○
学外者	当日限定	×	×

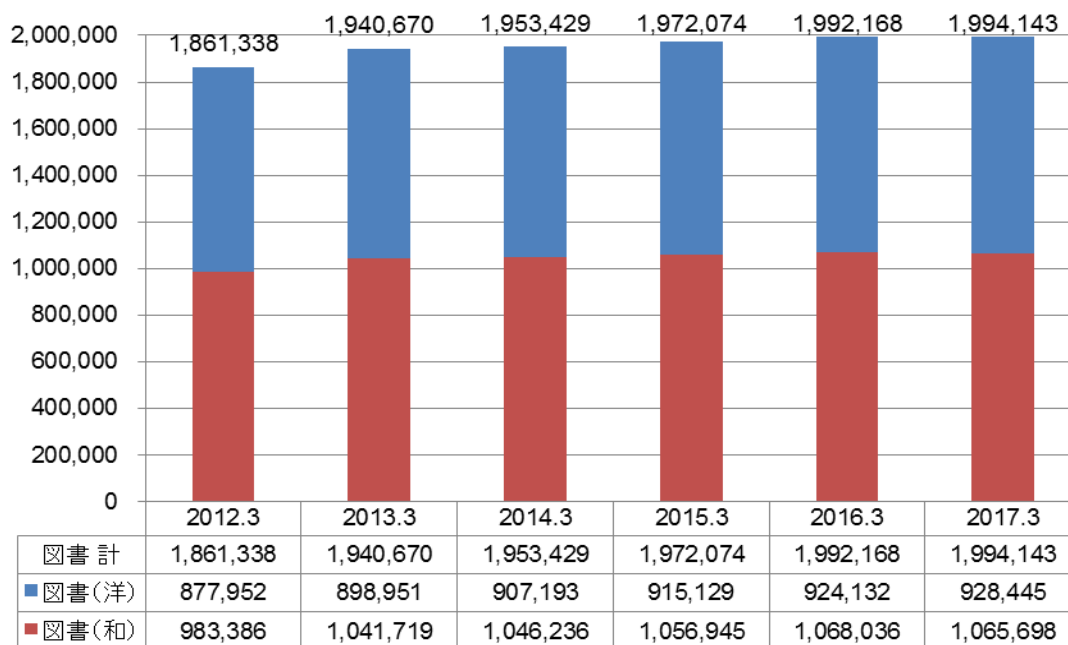
3.3 館外貸出冊数・貸出期間

利用者区分	貸出冊数	貸出期間		
		学習用図書	一般図書	製本雑誌
教職員	70冊	2週間	年度末まで	1週間
学部学生	10冊	2週間	2週間	1週間
大学院学生	30冊	2週間	2か月	1週間
名誉教授	70冊	2週間	年度末まで	1週間
元専任教員	10冊	×	1か月	1週間
研究員	30冊	2週間	2か月	1週間
学部卒業生	×	×	×	×
大学院修了者	10冊	×	1か月	1週間
他機関の研究者（館長許可）	10冊	×	1か月	1週間
大学功労者	10冊	×	1か月	1週間
学外者	×	×	×	×

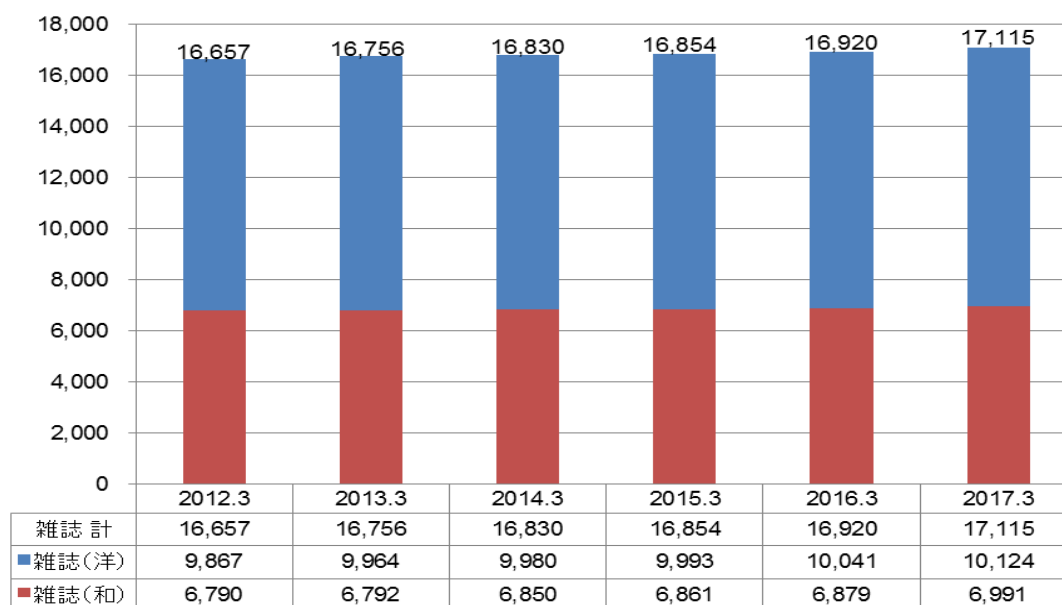
4. 統計

4.1 所蔵資料状況

4.1.1 図書〔冊〕



4.1.2 雑誌〔種類〕



※ 図書・雑誌の「和」は中国語, 韓国語を含む。

4.1.3 電子的資料

平成 29(2017)年 3 月 31 日現在

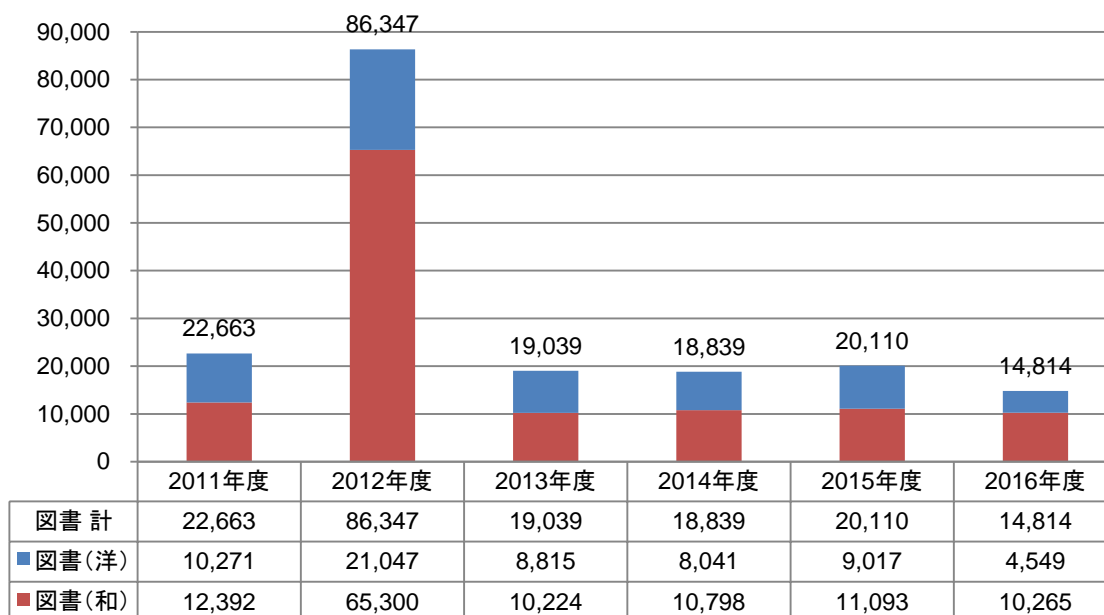
電子ブック(タイトル)	
和	2,059
洋	7,852
計	9,911

電子ジャーナル(種類)	
出版社	4,761
その他	12,803
計	17,564

データベース(種類)	
国内	16
国外	46
計	62

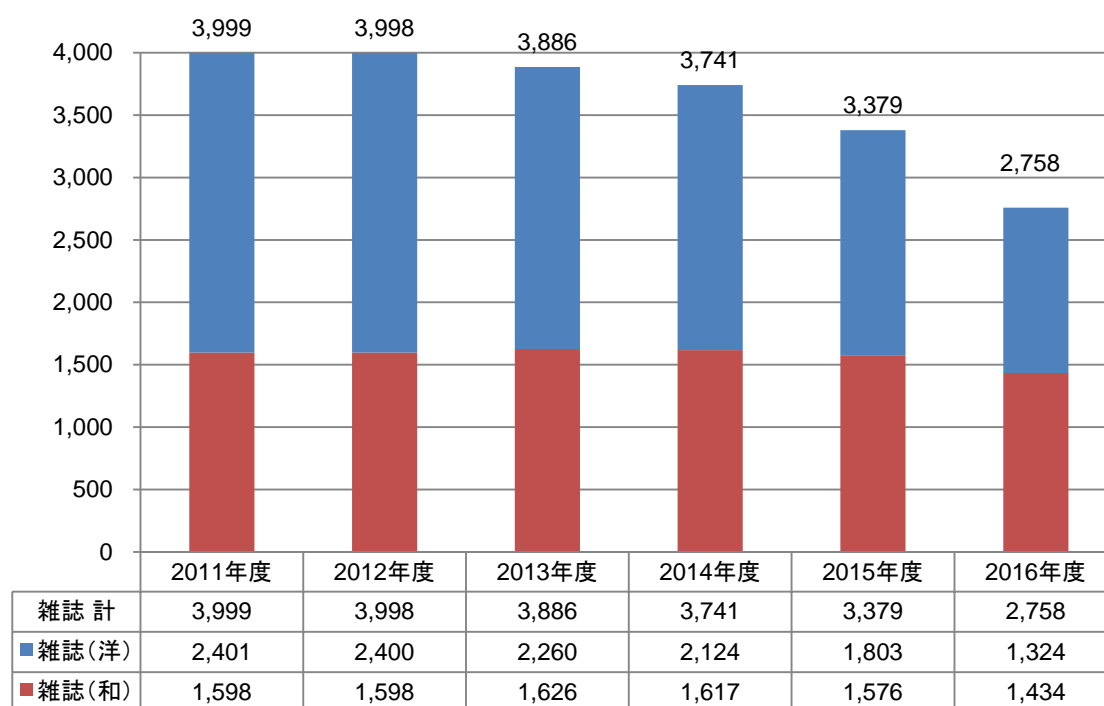
4.2 年間受入資料数

4.2.1 図書〔冊〕



※ 2012年度は、イノベーション研究センター資料室からの移管資料(約 65,000 冊)を含む。

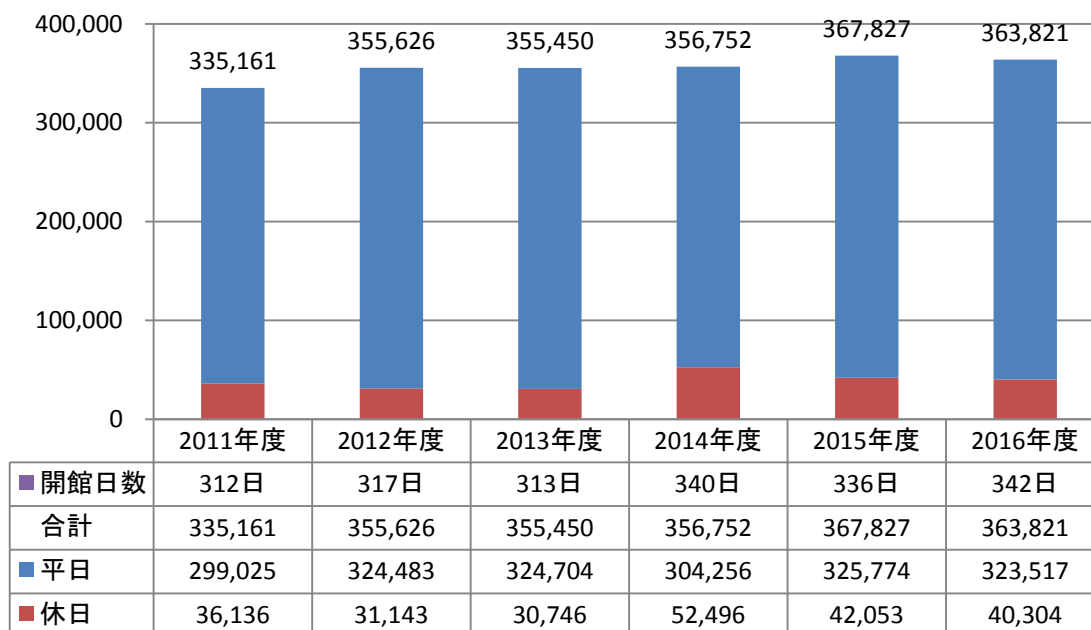
4.2.2 雑誌〔種類〕



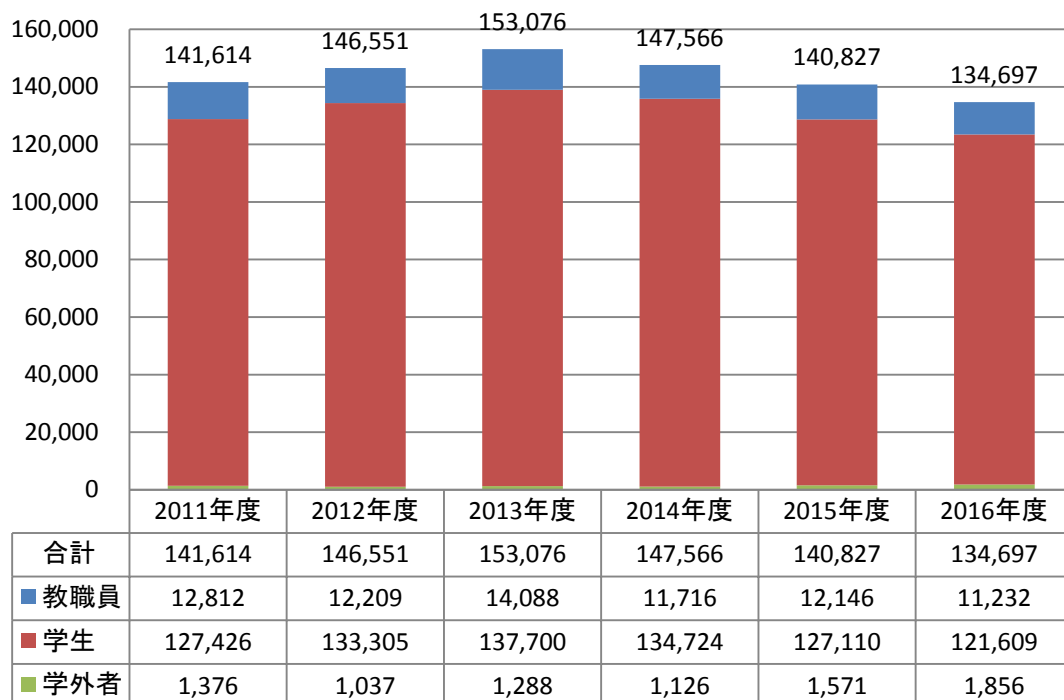
※ 個別契約の電子ジャーナルを含む。

4.3 利用状況

4.3.1 入館者〔人〕

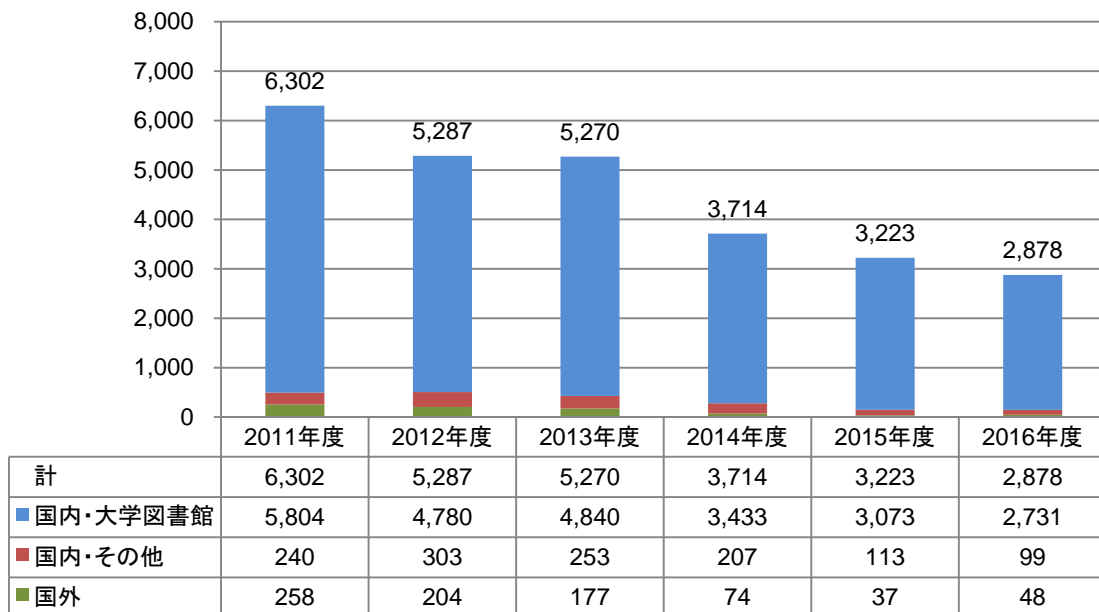


4.3.2 館外貸出〔冊〕

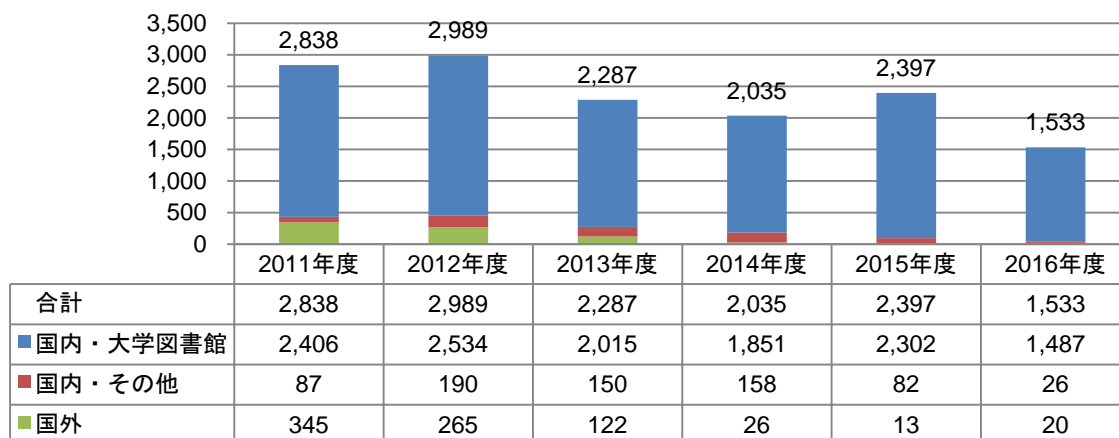


4.4 図書館相互協力

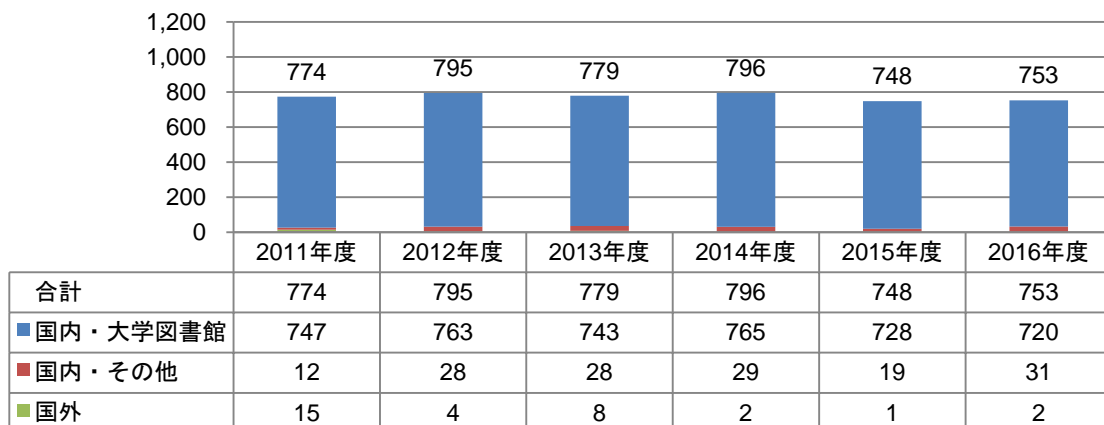
4.4.1 文献複写：他大学からの受付〔件〕



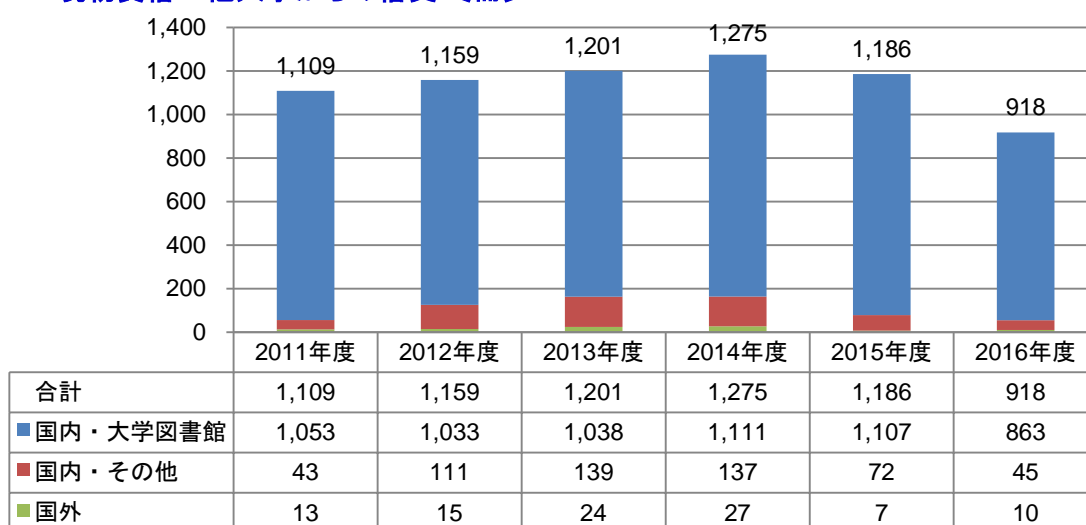
4.4.2 文献複写：他大学への依頼〔件〕



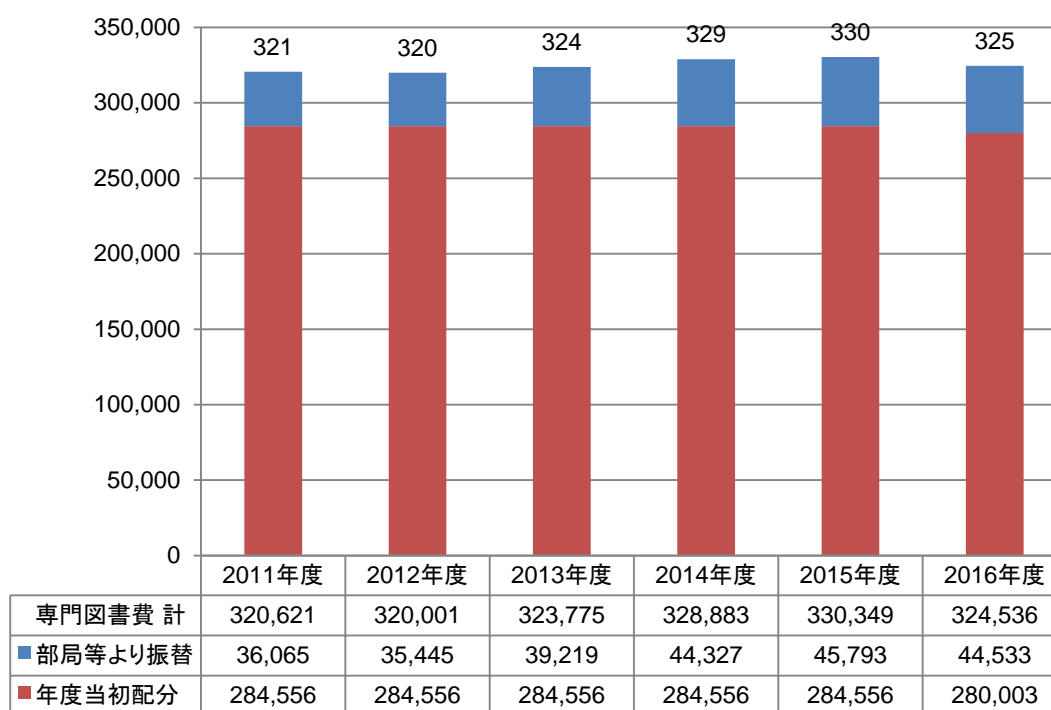
4.4.3 現物貸借：他大学への貸出〔冊〕



4.4.4 現物貸借：他大学からの借受〔冊〕



4.5 図書館資料費(専門図書費・決算)〔千円〕



5. 展示

<http://www.lib.hit-u.ac.jp/pr/tenji/>

平成 13(2001)年、本学のさまざまな所蔵資料を公開することを目的として、時計台棟 1 階に公開展示室を設置した(その後、平成 27(2015)年に「図書館展示室」と改称し、リニューアル)。

毎年 11 月の大学祭(一橋祭)の時期には、企画展示や講演会を開催している。通常は常設展示として、本学の源流である商法講習所の設立から東京商科大学を経て新制一橋大学設立に至る歴史を紹介する「一橋大学の歩み」に加え、当館の所蔵するコレクションを順次紹介している。

また、学外の博物館や資料館等の要請に応じて、資料貸出出展も行っている。

5.1 企画展示

一橋大学への歩み：創設期から一橋大学の成立まで	平成 13 年 11 月 7 日 ～ 11 月 20 日
武家社会と江戸・大坂の経済:幸田成友とその史料	平成 14 年 11 月 1 日 ～ 11 月 15 日
複式簿記がやってきた!	平成 15 年 10 月 27 日 ～ 11 月 14 日
都留重人と激動の時代	平成 16 年 10 月 25 日 ～ 11 月 5 日
オウエンから一橋へ：消費組合の成立と展開	平成 17 年 11 月 1 日 ～ 11 月 11 日
江戸時代の豪農と地域社会：岡田家文書の世界	平成 18 年 11 月 2 日 ～ 11 月 16 日
マーシャルとシュンペーターの遺産	平成 19 年 3 月 14 日 ～ 3 月 28 日
阿部謹也と歴史学の革新	平成 19 年 11 月 2 日 ～ 11 月 15 日
福田徳三とその時代：日本における経済学の黎明	平成 20 年 10 月 30 日 ～ 11 月 13 日
一橋大学の歩み：キーワードで知る学園史	平成 21 年 10 月 30 日 ～ 11 月 13 日
大江戸商売繁盛記：所蔵貴重資料から	平成 22 年 11 月 4 日 ～ 11 月 19 日
読書のかたち：読む行為と空間	平成 23 年 11 月 1 日 ～ 11 月 15 日
旅する高商生たち：明治・大正期の修学旅行報告書	平成 24 年 11 月 1 日 ～ 11 月 16 日
お肉のススメ：肉食禁忌と食の文明開化	平成 25 年 11 月 1 日 ～ 11 月 29 日
蔵書票の世界：モチーフから見る本間要一郎蔵書票コレクション	平成 27 年 10 月 30 日 ～ 11 月 30 日
一橋大学と東京外国語大学	平成 28 年 11 月 1 日 ～ 11 月 18 日

※平成 26 年度は、時計台棟改修のため、企画展示は行われなかった。

5.2 常設展示

一橋大学への歩み：明治期	平成 14 年 1 月 17 日 ～ 14 年 2 月 28 日
一橋大学への歩み：大正期	平成 14 年 4 月 10 日 ～ 14 年 5 月 31 日
一橋大学への歩み：昭和戦前	平成 14 年 6 月 18 日 ～ 14 年 8 月 30 日
土屋文庫	平成 14 年 6 月 18 日 ～ 14 年 8 月 30 日
良知文庫	平成 15 年 4 月 8 日 ～ 15 年 6 月 30 日
フォースターコレクション	平成 15 年 7 月 1 日 ～ 15 年 9 月 5 日
深沢文庫	平成 15 年 9 月 8 日 ～ 16 年 7 月 29 日
ドイツ紙幣等コレクション	平成 16 年 8 月 5 日 ～ 17 年 4 月 28 日
ラインバーガー文書	平成 17 年 5 月 24 日 ～ 18 年 4 月 7 日
一橋大学の校章「マーキュリー」の由来	平成 18 年 6 月 6 日 ～ 18 年 10 月 2 日
中山文庫	平成 19 年 1 月 16 日 ～ 20 年 1 月 29 日
奎星帖	平成 19 年 12 月 3 日 ～ 22 年 5 月 6 日
Captains of Industry の由来	平成 20 年 1 月 31 日 ～ 20 年 5 月 30 日
日本郵船会計帳簿類	平成 20 年 1 月 31 日 ～ 21 年 1 月 27 日
杉村廣藏と白票事件	平成 20 年 1 月 31 日 ～ 21 年 10 月 21 日
申酉事件と籠城事件	平成 20 年 6 月 3 日 ～ 21 年 10 月 21 日
リソルジメントコレクション	平成 20 年 10 月 6 日 ～ 22 年 7 月 9 日
戦時下の一橋	平成 21 年 1 月 29 日 ～ 21 年 10 月 21 日
岸野文庫	平成 21 年 7 月 21 日 ～ 22 年 12 月 27 日
ブレッシー文庫	平成 22 年 3 月 1 日 ～ 23 年 10 月 6 日
鳴海文庫	平成 22 年 7 月 13 日 ～ 23 年 10 月 6 日
村瀬文庫	平成 23 年 10 月 12 日 ～ 25 年 12 月 13 日
社史への招待	平成 25 年 12 月 17 日 ～ 26 年 7 月 30 日
シユムペーター文庫	平成 27 年 12 月 7 日 ～
大塚文庫	平成 27 年 12 月 7 日 ～
幸田文庫	平成 27 年 12 月 7 日 ～

5.3 特別展示

(1) オープンキャンパス特別資料展示

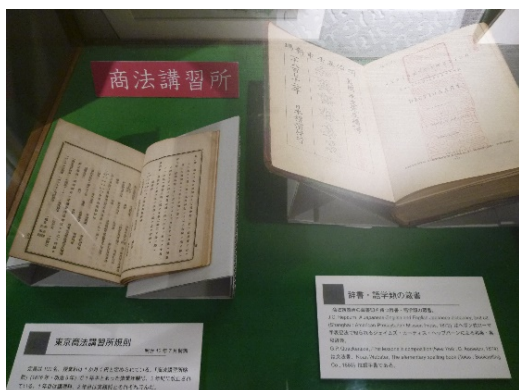
毎年開催されるオープンキャンパスでは、図書館展示室において、附属図書館および社会科学古典資料センター所蔵の貴重書、一橋大学の歩みを示す大学関係資料を展示している。

来場者数			来場者数		
第1回	(平成16年)	882	第8回	(平成23年)	1,428
第2回	(平成17年)	1,315	第9回	(平成24年)	1,419
第3回	(平成18年)	1,134	第10回	(平成25年)	1,556
第4回	(平成19年)	1,279	第11回	(平成26年)	1,529
第5回	(平成20年)	1,439	第12回	(平成27年)	2,094
第6回	(平成21年)	1,102	第13回	(平成28年)	2,186
第7回	(平成22年)	1,345			

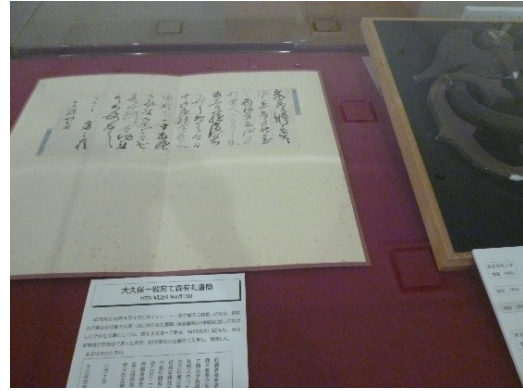
(2) ホームカミングデー記念展示

毎年開催されるホームカミングデーでは、図書館展示室において、明治8(1875)年以降の学園史、歴代学長の研究業績、社会科学古典資料センター所蔵資料を展示している。

来場者数			来場者数		
第1回	(平成18年)	432	第7回	(平成24年)	420
第2回	(平成19年)	330	第8回	(平成25年)	250
第3回	(平成20年)	438	第9回	(平成26年)	204
第4回	(平成21年)	532	第10回	(平成27年)	355
第5回	(平成22年)	420	第11回	(平成28年)	235
第6回	(平成23年)	398			



オープンキャンパス、ホームカミングデーにおける「一橋大学の歩み」



オープンキャンパス、ホームカミングデーにおける貴重書の展示

(3) 日・EU フレンドシップウィーク展示

日本に欧州連合（EU）のことをよりよく知ってもらうために設けられた「日・EU フレンドシップウィーク」にあわせて、EU 情報センターとして関連展示を行っている。

アンデルセンと「裸の王様」	平成 17 年 5 月 9 日 ～ 5 月 20 日
一橋大学の校章「マーキュリー」の由来	平成 18 年 5 月 15 日 ～ 5 月 31 日
EU の公用語	平成 19 年 5 月 16 日 ～ 5 月 31 日
欧州統合：ヨーロッパ概念の変遷	平成 20 年 5 月 13 日 ～ 5 月 30 日
カレル・チャペック その生涯と時代	平成 21 年 5 月 12 日 ～ 7 月 15 日
海を渡った経済学の至宝：メンガー文庫と一橋大学	平成 22 年 5 月 11 日 ～ 5 月 28 日
HUPOA（ハポア）ハンガリー、ポーランド アニメーションの世界	平成 23 年 5 月 17 日 ～ 5 月 31 日
デンマーク体操：あらゆる世代の健康をめざして	平成 24 年 5 月 15 日 ～ 5 月 31 日
「DRAGO MI JE (はじめまして)!2013 年加入国 クロアチア紹介」	平成 25 年 5 月 13 日 ～ 6 月 30 日
EU の交通事情：環境にやさしい街づくり	平成 26 年 6 月 9 日 ～ 7 月 30 日
レシピ Library@一橋大学：私のおいしいヨーロッパ	平成 27 年 7 月 1 日 ～ 8 月 10 日
今、EU に発信する NIPPON	平成 28 年 7 月 1 日 ～ 8 月 5 日



平成 28 年「今、EU に発信する NIPPON」

(4) 記念展示・追悼展示・メモリアル展示

塩野谷祐一名誉教授顕彰記念著作紹介	平成 15 年 1 月 20 日 ～ 15 年 4 月 7 日
「都留重人:経済思想と交友」都留重人名誉教授追悼展示	平成 18 年 4 月 12 日 ～ 18 年 5 月 10 日
阿部謹也元学長メモリアル展示	平成 18 年 10 月 4 日 ～ 18 年 12 月 11 日
篠原三代平名誉教授文化勲章受章記念展示	平成 18 年 12 月 13 日 ～ 19 年 1 月 12 日
「駒井重格の軌跡:専修大学の創立者,一橋の名校長」桑名市博物館・専修大学・一橋大学共同企画展 [会場:桑名市博物館]	平成 21 年 12 月 12 日 ～ 22 年 1 月 24 日

(5) その他展示

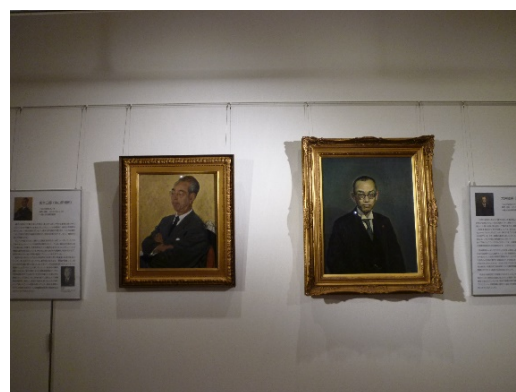
①高本善四郎助成図書コーナー小展示

(平成 28 年度)

アカデミック・スキルズ — 学びの技法 2016 —	平成 28 年 4 月 4 日 ～ 28 年 5 月 31 日
吾輩は猫である	平成 28 年 6 月 1 日 ～ 28 年 8 月 31 日
囲碁の世界	平成 28 年 9 月 1 日 ～ 28 年 11 月 6 日
菊池・直木・芥川 : 知られざる文豪たちを読んでみる	平成 28 年 11 月 7 日 ～ 29 年 3 月 31 日

②特別展示「学者の肖像 学者の風景:福田徳三・中山伊知郎展」

(平成 28 年 5 月 12 日～18 日)



③Library supports 三商ゼミ～三大学連携企画展示

(平成 28 年 12 月 8 日～16 日)



6. 情報リテラシー教育支援

6.1 図書館主催講習会

(平成 28 年度)

開催日	内容	開催回数	参加人数
4月1日(金) ～15(金)(土日は除く)	□大学院生向け図書館ツアー 附属図書館職員が、館内の案内と基本的な利用方法を説明。希望する学部生も参加可。	17	91
4月1日(金)～8日(金), 12日(火)～15日(金)(土日は除く)	□大学院生向けガイダンス 附属図書館職員が、①HERMES・MyLibraryの紹介, ②学術論文(和文・英文)の探し方, ③新聞記事の探し方, ④情報・資料に関する図書館 Web サイトや大学院生向けサービスをセットで説明	16	94
4月1日(金)～28日(木)	□図書館脱出ゲーム	1	213
4月19日(火)～22日(金)	□修論の書き方 研究開発室教員が、実体験を交えながら修士論文執筆のポイントを解説	4	33
5月18日(水), 20日(金)	□レポートの書き方ワークショップ 研究開発室教員による講義の後、サンプルレポートを用いたリーディング、グループ別ディスカッション、ディスカッションの発表をワークショップ形式で実施。	2	70
6月13日(月), 14日(火), 17日(金)	□データベース講習会 Mendeley, Web of Science, 日経 NEEDS-FQ のデータベース提供業者が講師として使い方を解説	3	31
6月22日(水)	□英語論文の書き方ガイダンス 海外の英文ジャーナルへ論文投稿を考えている大学院生向けのガイダンス。本学英語科教員と連携し実施。	1	10
7月6日(水), 8日(金)	□卒論作成に関するガイダンス 研究開発室教員と本学の大学院生が、論文執筆に有効なノウハウや今後の進め方について、体験談を交えながら説明	2	19
10月12日(水)	□就活ガイダンス 「キャリア形成論(業種別)」の授業の中で30分時間を設け、データベースを活用した企業情報の収集等、就活に役立つデータベース利用方法を実演。	1	96

10月12日(水), 21日(金)	<input type="checkbox"/> Before & After でわかるレポートの組み立て方ワークショップ 研究開発室教員による講義の後, Before レポートを用いたリーディング, グループ別ディスカッション, ディスカッションの発表, After レポートを用いた講義をワークショップ形式で実施。	2	17
10月24日(月)	<input type="checkbox"/> 英語論文の書き方ガイダンス 海外の英文ジャーナルへ論文投稿を考えている大学院生向けのガイダンス。本学英語科教員と連携し実施。	1	7
10月28日(金)	<input type="checkbox"/> 博士論文提出予定者向け著作権ガイダンス	1	24
	合計	51回	705人

6.2 オンデマンド・ガイダンス

教員からの依頼により, 資料の探し方, データベースの使い方など, 要望に合わせた内容で図書館職員が学生に解説する。

(平成28年度)

研究科等	実施回数
商学研究科	8
経済学研究科	5
法学研究科	7
社会学研究科	11
言語社会研究科	1
その他	2
計	34回

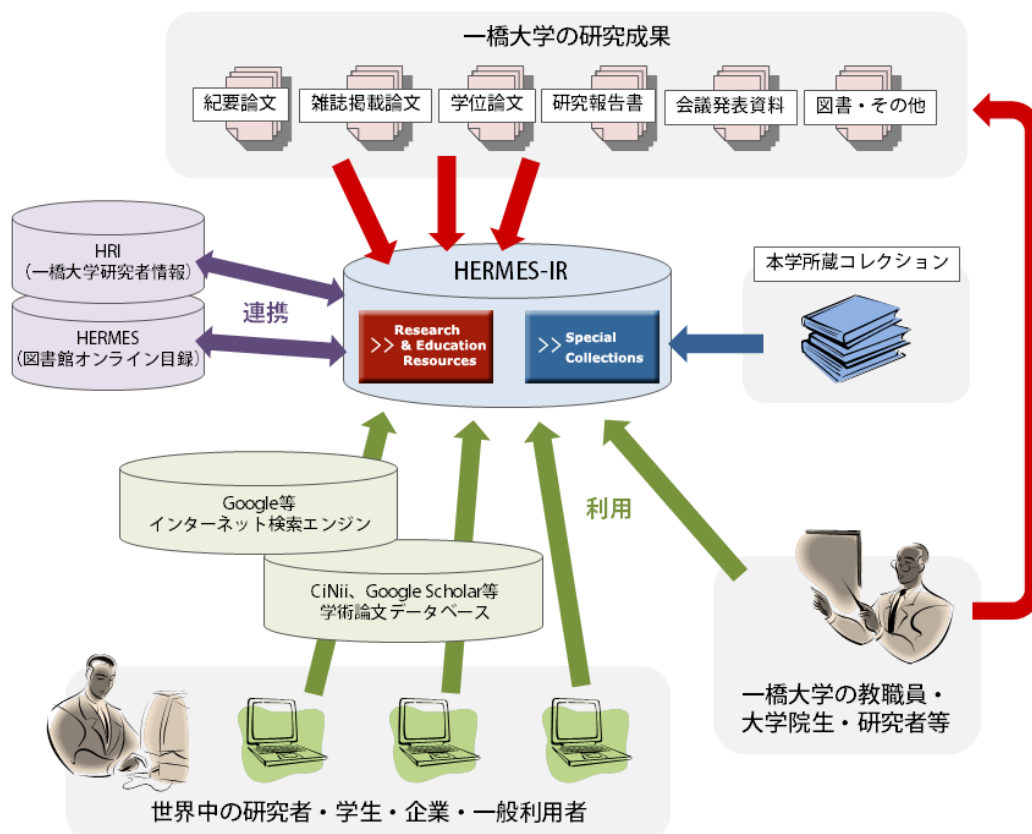
7. 機関リポジトリ

7.1 一橋大学機関リポジトリ“HERMES-IR”の概要

本学の研究・教育活動の成果をインターネットで広く世界に発信するため、2007年5月から一橋大学機関リポジトリ“HERMES-IR”を公開している。

機関リポジトリとは、機関(大学)で生産された研究成果の全文を電子的に保存し、発信するインターネット上の集積庫のことである。

HERMES-IRは附属図書館長を統括責任者とし、学術・図書館が運営を支援している。



(1) Research & Education Resources

一橋大学の研究・教育活動の成果を電子媒体で収集・保存し、インターネット上で全文データを発信している。外部のデータベースからメタデータ(著者名, 論題, 雑誌名など)をハーベスト(プログラマ的なメタデータの収集)されることにより, 学外のサイトでも HERMES-IR に登録されたデータが検索されるようになる。

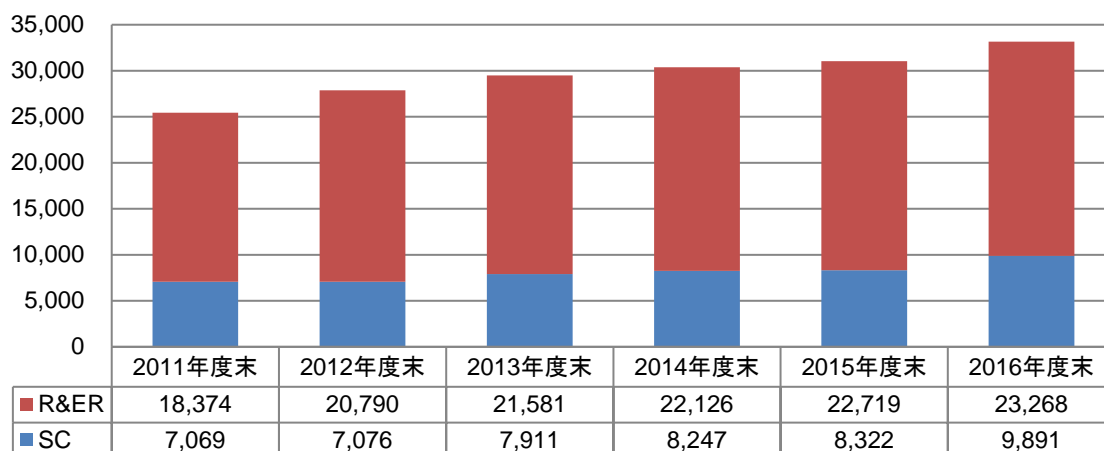
機関リポジトリは, 国立情報学研究所をはじめとする他機関と協力して, 学術情報の流通を促進する機能を果たしている。

(2) Special Collections

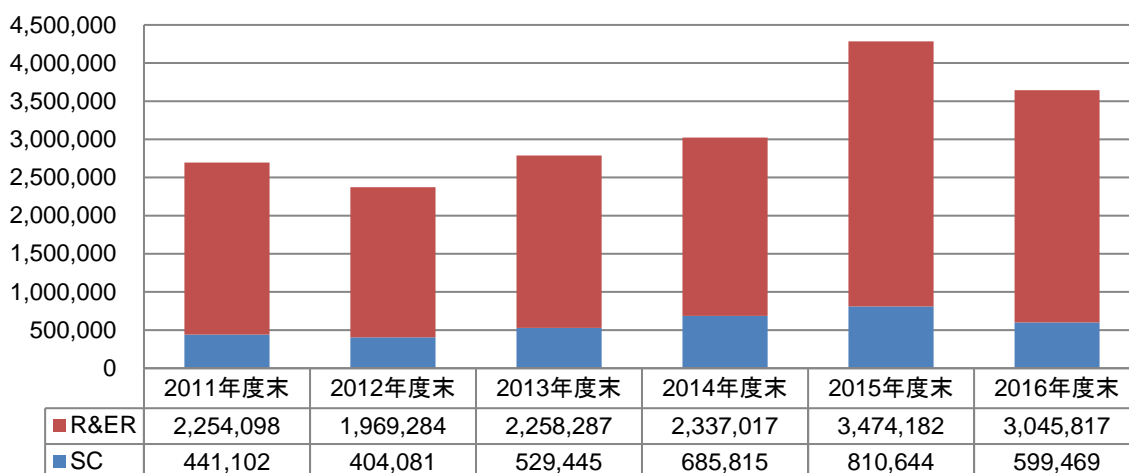
本学が所蔵する特殊コレクションを電子画像化し, インターネット上で発信している。社会科学史上, 貴重な古典籍や数々の原史料(写真, 図譜類, 文書類, 手稿類, 博物資料等)を電子化することにより, 資料保存と公開利用のバランスを図っている。学園史関係資料のアーカイブとしての役割も担っている。

7.2 統計

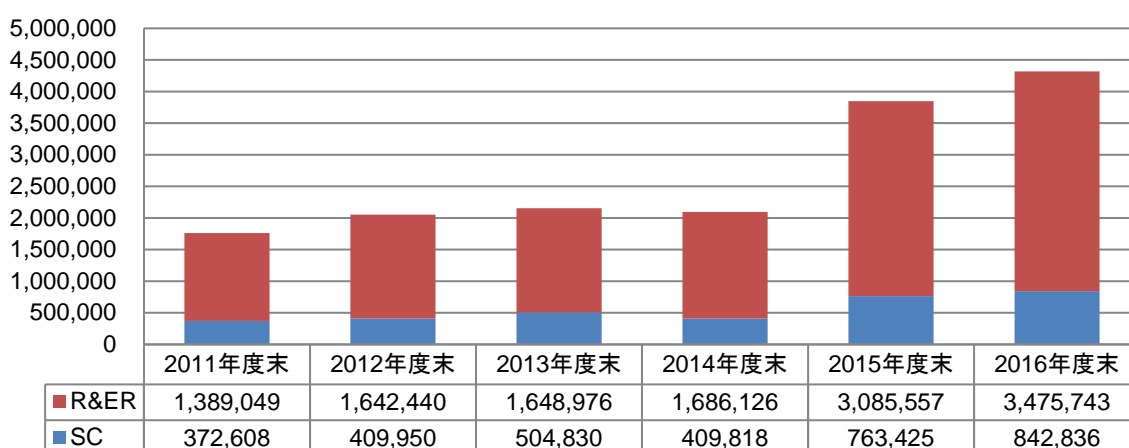
(1) コンテンツ累計登録数〔件〕



(2) 本文閲覧数〔ページビュー〕



(3) 目録閲覧数〔回〕



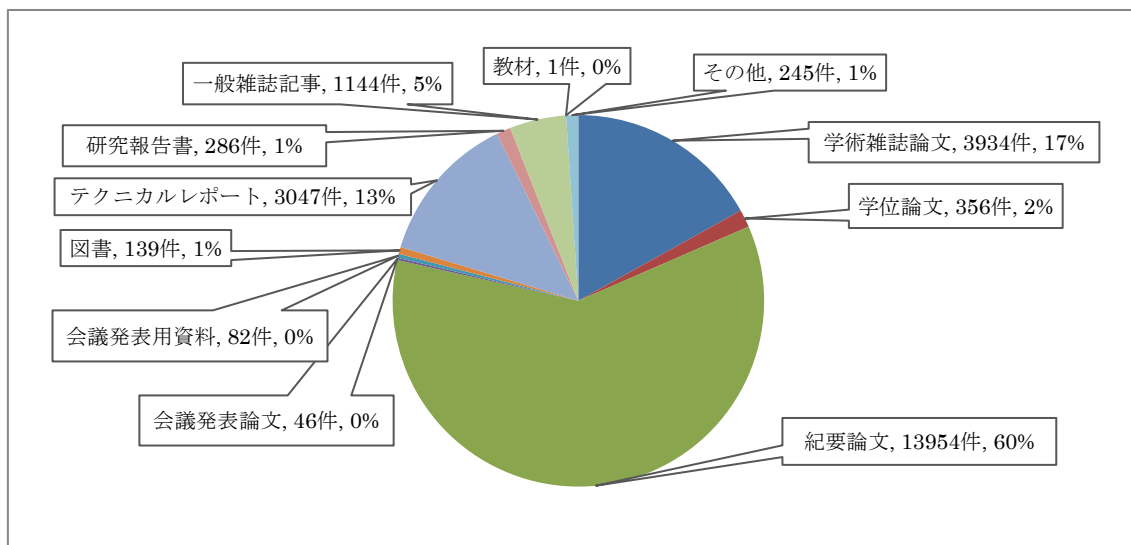
※ ■ R&ER : Research & Education Resources

■ SC : Special Collections

7.3 Research & Education Resources

(1) 登録コンテンツ内訳

平成 29(2017)年 3 月 31 日現在



(2) 外部データベース等との連携

- サーチエンジン(Google 等)からの検索・リンク
- 日本の機関リポジトリ・ポータル“JAIRO”からの検索・リンク
- 「一橋大学研究者情報」(HRI : Hitotsubashi Researchers Information) データベースとの相互リンク
- 各専門分野別のリポジトリやデータベースとの連携(コンテンツ提供, リンク)
 - ・ RePEc : Research Papers in Economics (経済学分野の世界的な主題リポジトリ)
 - ・ Westlaw Japan (米国トムソン・ロイターと新日本法規出版株式会社による法律情報総合データベース)

(3) デジタル識別子(DOI)の付与

機関リポジトリ登録コンテンツの利用促進および検索環境の向上を図るため,平成 28 年度より,本学紀要論文,博士論文(平成 25 年度以降学位授与分)を対象にジャパンリンクセンター(JaLC)の DOI(Digital Object Identifier)の付与を開始した。

7.4 Special Collections

近代日本経済史・経営史デジタルアーカイブ

- ・修学旅行等報告書
- ・商品陳列所旧蔵報告書
- ・農商務省調査資料
- ・商業慣習調査資料
- ・西川孝治郎文庫
- ・札差関係資料
- ・大伝馬町長谷川木綿店古帳
- ・日本郵船株式会社社会計帳簿類
- ・第三回内国勸業博覧会出品解説書
- ・江戸期商業関係資料
- ・明治期商業関係資料

近現代日本の専門職業人養成教育資料データベース

本学の講義ノート, 受講ノート, 教材等の教育・研究資料のコレクション

研究者手稿類デジタルアーカイブ

- ・大塚金之助(1892-1977)
- ・左右田喜一郎(1881-1927)
- ・杉村広蔵(1895-1948)
- ・福田徳三(1874-1930)
- ・古川栄一(1904-1985)
- ・三浦新七(1877-1947)

学園史関係資料

一橋大学にゆかりのある資料(関係図書, 論文・記事, 講演等発表資料ほか)

社会科学古典資料センター所蔵資料

- ・社会科学古典資料センター所蔵インキュナブラ
- ・バート・フランクリン個人コレクション
- ・メンガー文庫

附属図書館所在肖像画等コレクション

一橋大学附属図書館に所在する肖像画, 銅像, レリーフ等のコレクション

井藤半彌旧蔵ドイツ紙幣等コレクション

一橋大学元学長 井藤半彌(1894-1974)が, ベルリン留学中(1922年11月-1925年3月)に収集した, インフレ期(1922-1923)のドイツ紙幣, 緊急通貨(Notgeld), また, それとほぼ同時期に中国大陸で使用された法幣, 軍票などのコレクション

奎星帖

明治年間の広告を中心に, 記事の切り抜き・肖像写真・領収書・名刺・封筒・はがき・番付・本の題簽や見返し・短冊・扇面図・江戸時代の文書の断簡等雑多なものを貼り込んだスクラップブック。山寺清二郎が製作

戦前期アジア諸国写真コレクション

陸軍経理学校が研究のために収集した, 昭和初期から第二次世界大戦期にかけてのアジア・太平洋諸地域の風俗・風景・民族・産業等の3,705枚の写真コレクション

幸田文庫

文豪幸田露伴の弟で, 1922-1940の間本学で日本経済史を担当した幸田成友博士(1873-1954)が蒐集した「幸田文庫」の一部。武鑑類の和装本が大半を占める

8. 図書館情報システム

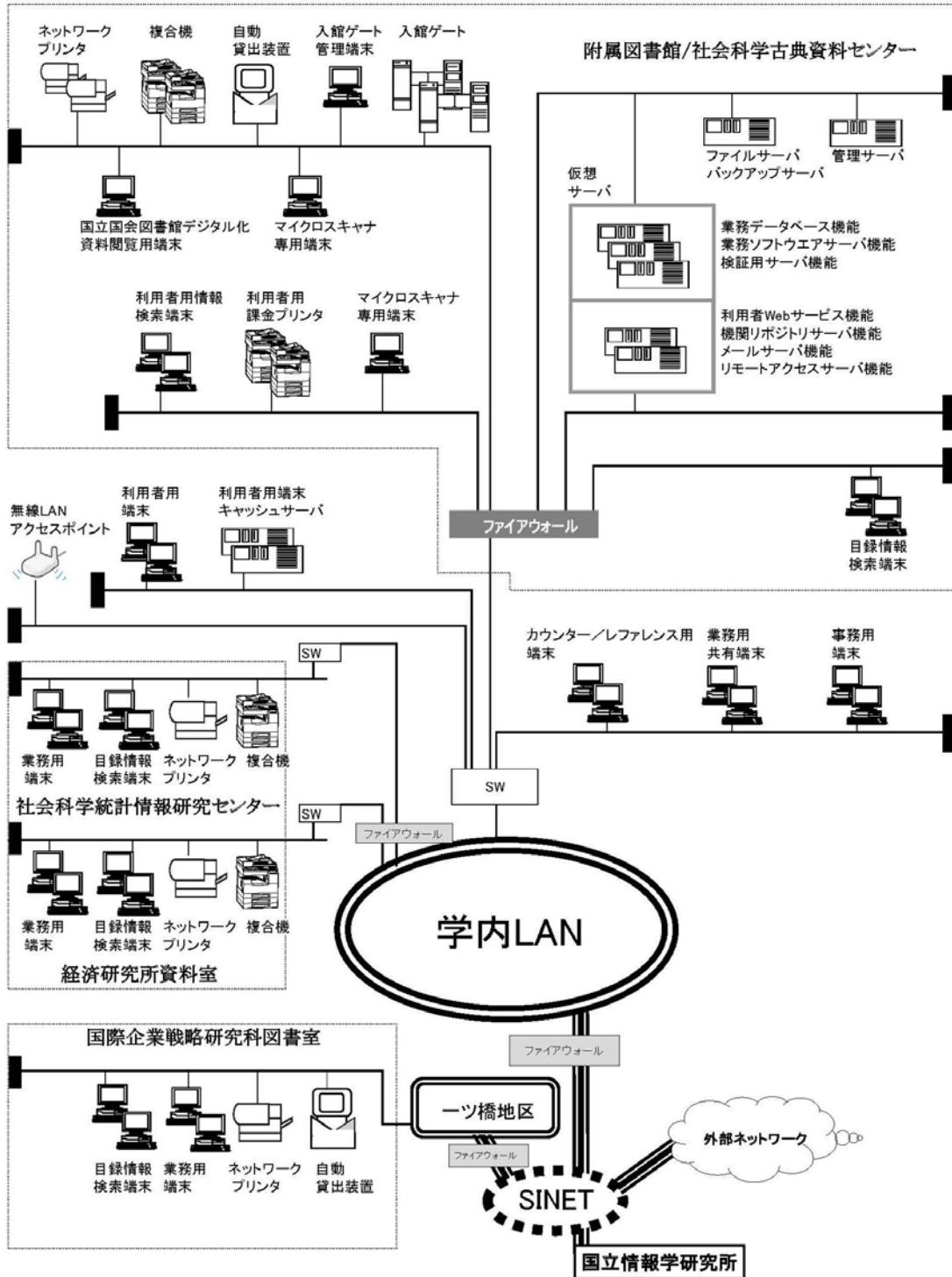
8.1 システム導入の経緯

1980年 2月	「図書館機械化委員会」設置
1981年 6月	情報処理センター汎用機により, 新館閲覧業務の電算化を開始
1985年 12月	雑誌管理業務の電算化を開始
1987年 4月	「業務電算化委員会」を設置
1991年 2月	図書館専用システム“HERMES”を導入(丸善製“CALIS”) 閲覧, 雑誌, 図書目録, ILL 業務を電算化
1994年 4月	館内用サーバによる CD-ROM 検索サービスを開始
1995年 1月	目録所在情報検索システム“JOINT”を導入(如水会の援助による)
1995年 2月	telnet による館外 OPAC 検索サービスを開始
1996年 1月	第1回システム更新(丸善製“CALIS”), 受入業務を電算化
1996年 10月	図書館ホームページを開設
1997年 4月	入退館管理システムの運用を開始
1997年 6月	ウェブによる OPAC・CD-ROM 検索サービスを開始
2000年 1月	第2回システム更新(丸善製“CALIS”)
2001年 11月	一橋デジタルアーカイブス“HDA”により, 電子化コンテンツの公開を開始
2005年 1月	第3回システム更新(NEC 製“E-Cats”) 初のベンダー変更
2005年 4月	総合情報処理センターとの共同により, 館内に利用者用インターネット PC を設置
2005年 10月	MyLibrary サービス(ウェブからの貸出・予約状況照会, 資料予約・取寄, 図書購入申込)を開始
2006年 3月	携帯電話版 OPAC サービスを開始
2007年 5月	一橋大学機関リポジトリ“HERMES-IR”を公開
2010年 1月	第4回システム更新(NEC 製“E-Cats”) 経済研究所の図書館業務システムとの統合, 運用の一元化
2010年 3月	HERMES-Link(一橋大学リンクサービス)導入により, 論文データベース検索結果から, フルテキスト(PDF), 文献複写申込(MyLibrary), 所蔵情報(OPAC)などへの統一的なリンクを提供
2010年 4月	利用者用インターネット PC を更新
2010年 10月	EZproxy 導入により, キャンパス外から契約電子ジャーナル等へのアクセスを実現
2012年 2月	利用者用インターネット PC を更新
2012年 6月	学内利用者に, ノート PC, プロジェクタの貸出を開始
2012年 8月	学内利用者に, iPad の館内貸出(試行サービス)を開始(~2017年3月終了)
2013年 1月	スマートフォン・タブレット端末に対応した図書館ウェブサイトの開設および OPAC サービスの開始

2013年11月	MyLibrary によるグループ学習室の施設予約を開始
2014年4月	ディスカバリーサービス(HERMES-Articles)導入により, 本学で契約している電子ジャーナルや電子ブックの学術論文をまとめて検索できるサービスを提供
2015年1月	第5回システム更新(NEC製“E-Cats”)
2015年2月	MyLibrary のログイン方法をシングルサインオンに変更
2015年2月	利用者用インターネットPCを更新 情報基盤センター情報教育棟のPCとの運用の一元化
2015年4月	大閲覧室に無線LAN設置

8.2 システム構成図

平成 29(2017)年 5 月 1 日現在



- 主な図書館情報システム
- ◆ 図書館業務システム
 - ◆ 機関リポジトリ・サーバ HERMES-IR
 - ◆ 利用者用 PC (50 台)
 - ◆ 利用者貸出用ノート PC (30 台)

9. 施設

9.1 建物

附属図書館施設は国立・西キャンパスにあり、昭和 5(1930)年竣工以来の様々な建物で構成されている。

(1) 時計台棟

- ・昭和 5(1930)年竣工
- ・昭和 60(1985)年, 平成 12(2000)年改修, 平成 27(2015)年耐震改修竣工
- ・地上 2 階地下 1 階, 時計台
- ・図書館使用部分床面積 1,931 m² ※

※ 時計台棟には, 図書館施設のほか, 教員研究室も配置されている。

昭和 5(1930)年, 本学の前身である東京商科大学の谷保村(現・国立市)移転と共に建設された。西キャンパスの中心に位置し, 時計台と 2 階大閲覧室は, 今日においても一橋大学のシンボリック的存在である。1 階は主に展示や研修のためのスペースにあてられている。

平成 24(2012)年から時計台棟コモンズを開設した。グループ学習などアクティブラーニングに対応する施設として年間 1 万人を超える多くの利用があった。

2階	大閲覧室
1階	エントランスホール, 附属図書館会議室, 時計台棟コモンズ, 図書館展示室, 図書館セミナールーム, 名誉教授閲覧室, 保存修復室
地階	書類保管庫



時計台棟外観



時計台棟から図書館本館自動扉を見る

(2) 図書館本館

- ・平成 12(2000)年竣工
- ・地上 4 階地下 1 階, 一部 5 階
- ・延床面積 6,693 m²

旧図書館本館の出納および事務スペース(時計台棟背面部分)と第一書庫を取り壊した跡に, 新しい図書館本館として平成 12(2000)年に竣工, 開館。

100 万冊規模の開架図書に加えて, 50 台の情報検索端末や読書スペース Yomocca が設置されている。

5階	機械室
4階	貴重資料室, マイクロ資料室, 事務室
3階	開架閲覧室
2階	開架閲覧室, グループ学習室, 大閲覧室入口
1階	カウンター(受付/貸出/返却/ヘルプデスク), 参考図書コーナー, 情報検索コーナー, 読書スペース Yomocca, 書庫入口, 雑誌棟連絡通路, 事務室
地階	開架書庫, 機械室



読書スペース Yomocca(本館1階)



情報検索コーナー(本館1階)



貴重資料室(本館4階)

(3) 雑誌棟

- ・昭和 55(1980)年竣工(地上 3 階現低層部分)
- ・平成 8(1996)年増改築竣工
- ・地上 5 階地下1階
- ・延床面積 4,246 m²

閉架中心の研究図書館であった旧・本館(現・時計台棟)に対して、学習図書館(新館(当時))として昭和 55(1980)年に開館。平成 8(1996)年の増改築後は、平成 12(2000)年の現・本館開館まで、本館機能を果たした。

現在は、雑誌、新聞等の逐次刊行物および統計、白書、法令資料等が集中配置されている。また、社会科学系外国雑誌センター館雑誌および EU 資料も配置されている。

5階	開架閲覧室(製本雑誌), グループ学習室
4階	開架閲覧室(製本雑誌)
3階	開架閲覧室(製本雑誌)
2階	開架閲覧室(白書/統計類/EU 資料)
1階	開架閲覧室(新着雑誌), 新聞コーナー, 事務室, 本館連絡通路
地階	開架書庫, 機械室



新着雑誌コーナー(雑誌棟1階)

(4) 第二書庫

- ・昭和 39(1964)年竣工
- ・平成 21(2009)年耐震改修竣工
- ・地上 4 層
- ・延床面積 846 m²



第三書庫(4階)

(5) 第三書庫

- ・昭和 58(1983)年竣工
- ・地上 4 層地下 1 層
- ・延床面積 885 m²

書庫の出入口にはカード認証リーダを設置し、教職員および大学院生が入庫できるようになっている。学部学生等は、職員の出納により書庫の資料を利用できる。

なお、「第一書庫」は現・本館新築のため平成 11(1999)年に解体されたが、「第二書庫」「第三書庫」の呼称はそのまま踏襲した。

(6) 小平研究保存図書館

- ・平成 26 年(2014)年改修
- ・地上 2 層地下 1 層
- ・延床面積 2,131 m²



小平研究保存図書館

平成 26 年度国立大学法人施設設備整備費補助金(国立大学改革基盤強化促進費)により、「近現代日本経済史・経営史のためのアーカイブスの整備等」事業が採択され、書架の整備およびアーカイブスのための環境整備を行った。

9.2 閲覧座席数, 収容可能冊数, 床面積(中央図書館のみ)

平成 29(2017)年 5 月 1 日現在

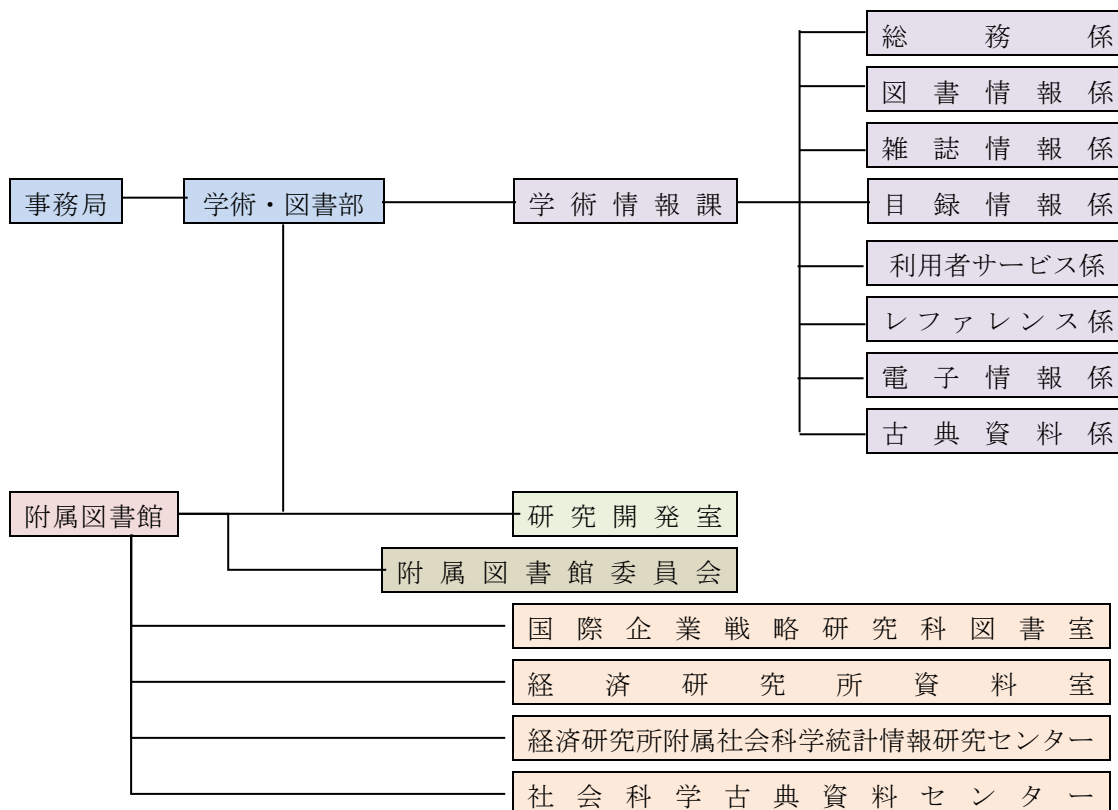
	閲覧座席数	収容可能 冊数 (千冊)	床面積(m ²)						
			延床面積	サービス用途			管理用途		その他
				閲覧	情報	その他	書庫	事務	
時計台棟	376		1,931	694		174	87	272	704
本館	212	881	6,693	2,493	105	129	1,202	835	1,929
雑誌棟	219	674	4,246	2,532	3	37	455	186	1,033
第二書庫		172	846				846		
第三書庫		229	885				885		
連絡通路等			201						201
小平研究保存 図書館	24	313	2,131	43		41	1,330	123	594
合計	831	2,269	16,933	5,762	108	381	4,805	1,416	4,461

*1 棚 (90cm) 25 冊で計算

10. 組 織

10.1 組織機構図

平成 29(2017)年 5 月現在



10.2 学術・図書部職員の配置

	一般職員		非常勤職員	計	備 考
	図書系	その他			
部 長	1			1	
課 長	(1)			(1)	部長兼務
課 長 代 理	2			2	
総 務 係		2	1	3	
図 書 情 報 係	3			3	
雑 誌 情 報 係	3		2	5	
目 録 情 報 係	2		6	8	
利用者サービス係	3		11	14	うち時間外開館職員 6
レファレンス係	3		3	6	
電 子 情 報 係	3		1	4	
古 典 資 料 係	(1)			(1)	目録情報係兼務
学術情報課付		1	2	3	
研 究 開 発 室		(2)		(2)	社会科学古典資料センター専門助手兼務
計	20(2)	3(2)	26	49(4)	

()は、兼務を示す。

10.3 附属図書館研究開発室

附属図書館研究開発室は、図書館機能の強化に関する様々な調査研究を行うため、平成 24(2012)年 4 月に設置した組織である。

(1) 体制

平成 29(2017)年 5 月現在

	氏名	所属	専門領域
室長	山部 俊文 (平 26.12.1～)	附属図書館長, 社会科学古典資料センター長	社会法学, 民法学
室員	床井 啓太郎	社会科学古典資料センター専門助手	西洋近世史, 書誌学
	福島 知己	社会科学古典資料センター専門助手	西洋思想史

(2) 役割

- 電子情報・紙媒体の資料の収集・保存・利用者へのサービス提供等に関する調査研究
- 歴史的資料の保存・公開に関する調査研究
- 附属図書館の情報発信の機能強化に関する調査研究
- 高度な専門知識を有する図書館職員の養成

(3) 平成 28 年度の主なプロジェクト

- 梅谷文夫名誉教授寄贈古典籍の整理
- 展示関連事業
- 情報リテラシー教育プロジェクト
- 図書館グローバルデザイン・ワーキング・グループ
- 福田徳三研究会事務局

(4) 成果の公表：『一橋大学附属図書館研究開発室年報』

研究開発室の年間の活動および研究成果を公表することを主たる目的とし、併せて図書館活動に関わる事業・調査・研究報告を行うため、平成 24(2012)年度に『一橋大学附属図書館研究開発室年報』を創刊、2017 年 No.5 を発行。

一橋大学機関リポジトリ“HERMES-IR”等で、本文の電子公開を行っている。

・PDF ファイル(一橋大学機関リポジトリ HERMES-IR)
<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/25649>



10.4 附属図書館委員会名簿

平成 29(2017)年 4 月 1 日現在

所属・職名		氏名	任期
附属図書館長	教 授	山 部 俊 文	平 26.12.1～30.11.30
役員補佐	教 授	古 澤 泰 治	平 26.12.1～30.11.30
商学研究科	教 授	荒 井 耕	平 28.4.1～30.3.31
〃	教 授	山 下 裕 子	平 29.4.1～31.3.31
経済学研究科	教 授	富 浦 英 一	平 28.4.1～30.3.31
〃	准 教 授	山 下 英 俊	平 29.4.1～31.3.31
法学研究科	准 教 授	クォン ヨンソク	平 28.4.1～30.3.31
〃	教 授	中 西 優 美 子	平 29.4.1～31.3.31
社会学研究科	教 授	白 瀬 由 美 香	平 28.4.1～30.3.31
〃	教 授	多 田 治	平 29.4.1～31.3.31
言語社会研究科	教 授	鈴 木 将 久	平 29.4.1～31.3.31
国際企業戦略研究科	教 授	小 川 宏 幸	平 29.4.1～31.3.31
経済研究所	教 授	神 林 龍	平 29.4.1～31.3.31
全学共通教育教員	准 教 授	柳 田 直 美	平 28.4.1～30.3.31
〃	教 授	中 山 能 力	平 29.4.1～30.3.31
社会科学古典資料センター	教 授 (併 任)	屋 敷 二 郎	平 28.6.1～30.3.31
学術・図書部	部 長	鈴 木 宏 子	平 28.4.1～

10.5 資料整備検討ワーキング・グループ委員名簿 (平成 29 年度)

所属・職名		氏名
附属図書館長	教 授	山 部 俊 文
役員補佐	教 授	古 澤 泰 治
商学研究科	教 授	山 下 裕 子
経済学研究科	教 授	富 浦 英 一
法学研究科	教 授	中 西 優 美 子
社会学研究科	教 授	多 田 治
言語社会研究科	教 授	鈴 木 将 久
全学共通教育教員	教 授	中 山 能 力
学術・図書部	部 長	鈴 木 宏 子

10.6 歴代附属図書館長

初代	高垣 寅次郎	大 15.11.29～昭 11.2.10	第19代	外池 正治	平元. 6.16～ 3. 6.30
第2代	本間 喜一	昭 11. 2.10～12. 3. 5	第20代	宮川 公男	平 3. 7. 1～ 6. 6.30
第3代	吹田 順助	昭 12. 3. 5～19. 8.11	第21代	中村 政則	平 6. 7. 1～ 9. 6.30
第4代	山田 雄三	昭 19. 8.11～21.12. 1	第22代	石 弘光	平 9. 7. 1～10.11.30
第5代	村松 恒一郎	昭 21.12. 1～25. 5.18	第23代	安藤 英義	平 10.12. 1～13.11.30
第6代	山口 茂	昭 25. 5.18～26. 6.18	第24代	池間 誠	平 13.12. 1～16.11.30
第7代	加藤 由作	昭 26. 6.18～28. 7.14	第25代	斎藤 修	平 16.12. 1～20.11.30
第8代	村松 恒一郎	昭 26. 7.14～35. 3.31	第26代	渡辺 雅男	平 20.12. 1～22.11.30
第9代	高橋 泰蔵	昭 35. 4. 1～36. 4.16	第27代	江夏 由樹	平 22.12. 1～26. 3.31
第10代	森田 優三	昭 36. 4.16～40. 3.31	第28代	青木 玲子	平 26. 4. 1～26.11.30
第11代	馬場 啓之助	昭 40. 4. 1～43. 3.31	第29代	山部 俊文	平 26.12. 1～
第12代	板垣 與一	昭 43. 4. 1～46. 3.31			
第13代	小泉 明	昭 46. 4. 1～50. 9.10			
第14代	増淵 龍夫	昭 50. 9.10～53. 9. 9			
第15代	木村 増三	昭 53. 9.10～56. 9. 9			
第16代	大川 政三	昭 56. 9.10～59. 9. 9			
第17代	川井 健	昭 59. 9.10～61.11.30			
第18代	森田 哲彌	昭 61.12. 1～平元.6.15			

11. 沿革

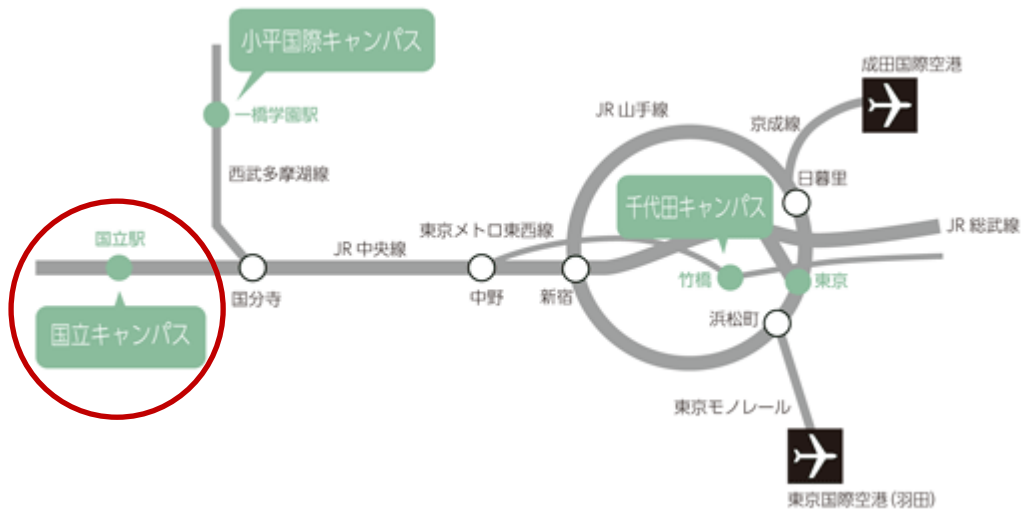
1875年	8月	森有禮、銀座尾張町に商法講習所を私設する。
1884年	3月	商法講習所は農商務省の所管に移り、東京商業学校と改称する。
1885年	9月	東京商業学校、東京外国語学校、同所属高等商業学校を併せて、新たに東京商業学校と称し、神田区一ツ橋通町の旧東京外国語学校舎に開設する。初めて図書室が設けられ、図書掛3名を置く。
1887年	10月	高等商業学校と改称する。
1894年		図書館が新築される。
1899年	4月	附属外国語学校が再び分離独立し、東京外国語学校(現・東京外国語大学)となる。
1902年	4月	勅令により東京高等商業学校と改称する。
1909年	2月	新図書閲覧所(木造2階建)が開館する。
1917年	5月	御大典記念図書館(鉄筋4階建書庫、木骨煉瓦張事務室および閲覧室)が竣工する。
1920年	4月	大学に昇格し、東京商科大学が発足する。
1923年	9月	関東大震災により、図書館も一部破壊する。
1925年	9月	本学創立50周年記念として、図書館所蔵稀観書の展覧会を開催する。
1926年	9月	勅令により官制上初めて、本学に附属図書館が設置される。館長と司書2名を置く。
1930年	10月	新キャンパス(現・国立市)で附属図書館が開館する。
1936年	4月	東京府北多摩郡小平村(現・小平市)に図書館予科分館(後の小平分館)が開館する。
1944年	10月	東京産業大学と改称する。
1947年	3月	大学名を東京商科大学に復する。
1949年	5月	国立学校設置法が公布され、一橋大学が発足。附属図書館の事務組織が確立する。事務長および本館に4係(総務、洋書、和漢書、閲覧)、分館に図書係が置かれる。
1953年	9月	本館の夜間開館を開始する。
1955年	10月	本学創立80周年記念展示会に、学園史資料および貴重資料を展示する。
1959年	10月	本学創立85周年記念式典の一環として「一橋大学歴史資料展示会」を開催する。
1962年	5月	小平分館の夜間開館を実施する。
1963年	2月	小平分館が増改築される。
1964年	3月	本館第二書庫が竣工する。
1969年	3月	大学院生の入庫検索を許可する。
	4月	小平分館(鉄筋2階建)が新築され、新小平分館が開館する。
1970年		予算委員会において、附属図書館の専門図書費配当額は校費の20%以上とするの方針を確立する。
1975年	10月	本学創立百周年記念行事の一環として「学園史資料および貴重図書の展示会」を開催する。
		「一橋大学附属図書館史」を刊行する。
1977年	3月	図書館貴重書書庫(現・社会科学古典資料センター建物)が竣工する。
1978年	4月	社会科学古典資料センターが発足し、図書館長がセンター長を併任する。部課長制を敷き、整理課、閲覧課の2課を置く。
1979年	3月	小平分館新書庫が竣工する。
	7月	一橋大学附属図書館報「鐘」を創刊する。

1980年	4月	附属図書館新館(現・雑誌棟低層部)が竣工する。
1981年	6月	情報処理センター汎用機を利用し、新館閲覧業務の電算処理を開始する。
1983年	3月	本館第三書庫が竣工する。
1985年	4月	社会科学系外国雑誌センターが発足する。
1991年	2月	図書館業務電算システム“HERMES”を導入する。
		附属図書館内に特定 EC 資料センターを設置する。
1993年	10月	本館で授業期の土曜開館を開始する。
1994年	5月	EU(欧州連合)成立に伴い EC 資料センターを EU 資料センターに改称する。
1995年	2月	ネットワーク目録所在情報検索サービス“JOINT”を開始する。
1996年	9月	附属図書館第 1 期増改築工事が竣工する。
		附属図書館新館(現・雑誌棟高層部)が開館する。
	10月	図書館ホームページを開設する。
		Web によるネットワーク目録所在情報検索サービスを開始する。
1997年	3月	Web によるネットワーク CD-ROM データベース検索サービスを開始する。
	4月	小平分館を廃止し、小平図書収蔵庫とする。
	10月	東学習図書室を開室する。(～2006年3月)
2000年	3月	附属図書館第 2 期増改築工事が竣工する。
	10月	附属図書館新本館が開館する。新館を雑誌棟に改称する。
2001年	4月	授業期の開館時間を拡大する(平日夜間 22 時まで、日曜祝日開館)。
	11月	公開展示室を開室し、記念企画展「一橋大学への歩み」を開催する。
		一橋デジタルアーカイブス“HDA”を公開する。
2003年	10月	四大学連合および多摩地区国立五大学図書館間の「相互利用に関する申合せ」が発効する。
	12月	GIF(Global ILL Framework)プロジェクトによる北米大学図書館との現物相互貸借の試行を開始する。
2004年	4月	国立大学法人に移行する。旧附属図書館事務部と事務局研究協力部門および情報処理部門を併せて「学術・図書部」に改組される。
	6月	慶應義塾図書館および早稲田大学図書館との「相互利用に関する申合せ」が発効する。
		上智大学図書館との「現物貸借に関する覚書」が発効する。
2005年	4月	「EU Institute in Japan 図書館相互利用に関する協定書」が発効する。
2006年	11月	一橋大学附属図書館新広報誌“BELL”を創刊する。
2007年	4月	附属図書館専門助手 2 名を採用する。
	5月	一橋大学機関リポジトリ“HERMES-IR”を公開する。
2009年	10月	日本貿易振興機構アジア経済研究所との「現物貸借に関する覚書」が発効する。
2011年	3月	社会科学古典資料センター耐震工事が完了する。
	4月	国際基督教大学図書館との「相互利用に関する覚書」が発効する。
	7月	津田塾大学図書館との「相互利用に関する覚書」が発効する。
2012年	3月	Facebook に一橋大学附属図書館公式ページを開設する。
		メインカウンター、レファレンスカウンターおよび相互利用カウンターを統合する。
	4月	附属図書館研究開発室を設置する。
	10月	「時計台棟 commons」を開室する。
	11月	中国人民大学図書館との交流協定を締結する。
2013年	2月	2010年3月からの試行運用を経て、附属図書館 Twitter アカウントの正式運用を開始する。

	3月	『一橋大学附属図書館研究開発室年報』を創刊する。
	4月	イノベーション研究センター資料室旧蔵資料の提供を開始する。
	10月	中国人民大学との相互利用の運用を開始する。
2014年	1月	小平図書収蔵庫が改修される。
	1月	日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館との「相互利用に関する覚書」を改定発効する。
	4月	小平研究保存図書館を設置する。
		休業期の開館時間を拡大する(試行)(平日 19 時まで, 土日祝日 17 時まで)。
	7月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを導入する。
	8月	時計台棟の改修工事を開始する。
	10月	オンデマンド印刷サービスを開始する。
2015年	3月	小平研究保存図書館 2 階に書架を整備する。
	4月	時計台棟の改修工事が終了する。
		大閲覧室に無線 LAN を設置し利用再開する。
		読書スペース Yomocca を本館 1 階に設置する。
	5月	公開展示室を図書館展示室と改称しリニューアルオープンする。
	12月	小平研究保存図書館所蔵資料の複写サービスを開始する。
2016年	4月	「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業(平成 28~30 年度)」を開始する。
	7月	小平研究保存図書館所蔵資料の取寄サービス, 訪問利用(試行)を開始する。
2017年	1月	一橋大学古本募金を開始する。
	4月	土日祝日の開館時間を拡大する(授業期 20 時まで, 休業期 19 時まで)。
		学部学生の貸出可能冊数を拡大する(10 冊)。

12. 案内図

12.1 一橋大学交通案内



12.2 一橋大学国立キャンパス構内配置図



一橋大学附属図書館概要 平成 29(2017)年度 2017 年 7 月発行

編集発行 : 一橋大学附属図書館

〒186-8602 東京都国立市中 2 丁目 1 番地

TEL 042-580-8223 MAIL lib-dm@dm.hit-u.ac.jp

Website : <http://www.lib.hit-u.ac.jp/>

Twitter : https://www.twitter.com/hito_lib [@hito_lib]

Facebook : <https://www.facebook.com/hitotsubashi.university.library>